

短報 港北区内洗濯物に付着したクサギカメムシ・キマダラカメムシの記録

七里浩志、浦垣直子（横浜市環境科学研究所）

Halyomorpha halys and *Erthesina fullo* (Hemiptera) on the laundry in Kohoku ward, Yokohama city

Hiroshi Shichiri, Naoko Uragaki (Yokohama Environmental Science Research Institute)

キーワード：クサギカメムシ、キマダラカメムシ、外来種、非意図的移入、植物防疫

要 旨

農業害虫であり、不快害虫としても認識されている在来種クサギカメムシと外来種キマダラカメムシについて、横浜市港北区内の宅地における発生活消長を記録した。2020年4月から翌年2月までの11か月間の調査でクサギカメムシは4個体が秋から冬に、キマダラカメムシは38個体が主に春と秋に確認された。クサギカメムシについては日本からの輸出品に対し季節的検疫措置を求める国があり、キマダラカメムシの増加は植物防疫上の新たなリスクとなる可能性がある。

1. はじめに

クサギカメムシ *Halyomorpha halys* (図1) は、体長15mm前後の褐色のカメムシである。日本全国に分布する在来種で、横浜市内においても比較的普通に見られる。本種は農作物を吸汁加害することから農業害虫として知られるほか、外干しの洗濯物等に付着して家屋に侵入し、臭気を発することから不快害虫としても認識されている。

一方、クサギカメムシに酷似した外来種のキマダラカメムシ *Erthesina fullo* (図2) は体長20mm前後で、近年、国内での分布を拡大している¹⁾。2011年には神奈川県内でも初めて繁殖が確認された¹⁾。2021年現在において横浜市内では、サクラの街路樹等に普通に見られ、少なくとも市街地では最もよく見られるカメムシ類の一つである。本種もクサギカメムシと同様、しばしば洗濯物に付着するため、両種は区別されることなく、不快なカメムシとして扱われているものと思われる。

2018年にニュージーランドにおいて、日本からの輸出入自動車を積んだ貨物船の荷揚げが拒否される事態が発生した²⁾。これは貨物船内からクサギカメムシが確認さ

れたことによるもので、同国はクサギカメムシ未定着国であり、農業被害を警戒しての措置である²⁾。クサギカメムシが貨物船や家屋等に侵入するのは、秋から初冬に越冬場所を求め、身を隠すための各種隙間や衣類等に潜り込むためであるが、酷似する外来種キマダラカメムシの出現により、これらのカメムシによる被害発生状況に変化が生じる可能性も考えられる。そこで今回、市内の現状を示す一例として、横浜市港北区内の宅地において洗濯物に付着し、家屋へ取り込まれた両種の個体数を計数したので、報告する。

2. 方法

港北区内宅地において南向きのベランダに干した洗濯物に付着したカメムシ類を目視により確認し、捕獲、回収した。宅地は、河川や公園、幹線道路に近い立地で、街路樹として植栽されたサクラ(ソメイヨシノ)にも近い。

調査期間は2020年4月1日から2021年2月28日までの11か月間である。

3. 結果と考察

調査期間である11か月間で、クサギカメムシ4個体、キマダラカメムシ38個体が捕獲、回収された。捕獲月別、性別個体数の変化を表1、図3に示す。

確認された個体は、10月6日のキマダラカメムシ♀幼虫1個体のほかは、全て成虫であった。

クサギカメムシは、全体の捕獲数が少ないものの10月～12月の秋から冬にかけてのみ確認された(10月24日初認、12月27日終認)。

一方、キマダラカメムシは春から秋にかけて確認され、盛夏に少なく、春と秋に多い傾向であった(4月17日初認、11月14日終認)。キマダラカメムシは年1化とされ³⁾、夏季は卵～幼虫期にあたるが、成虫も街路樹等に付着しているのを見かける。夏季に確認数が少なかった原



図1 クサギカメムシ 図2 キマダラカメムシ

表1 洗濯物に付着したカメムシ類

種名 性別	キマダラカメムシ		クサギカメムシ	合計
	♂	♀	♀	
4月	8	2		10
5月	2	2		4
6月	1			1
7月				0
8月	1	1		2
9月	4			4
10月	5	6	1	12
11月	5	1	1	7
12月			2	2
1月				0
2月				0
合計	26	12	4	42

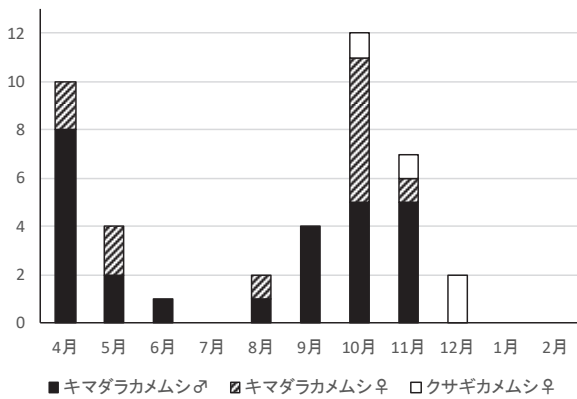


図3 洗濯物に付着したカメムシ類

因としては本種の発育ステージのほか、日射量が多く、それに伴いベランダ周辺や干した洗濯物の表面温度が高かったことによると考えられる。

クサギカメムシについては、植物防疫上の観点から移出入が警戒され、2021年現在、日本からニュージーランドへ輸出される車両・機械及び部品に対しては、9月1日から4月30日までの期間、同じくオーストラリアへの輸出に対しては9月1日から5月31日までの期間、それぞれ輸出前処理等の検疫措置が求められている⁴⁾。周辺環境等の条件を考慮する必要があるが、本調査によりキマダラカメムシは、より長い期間、各種隙間や衣類に潜り込む可能性が示唆された。これは防疫上の新たなリスクとなりうることから、今後、より詳細な調査やデータの蓄積が必要と思われる。

文献

- 1) 谷田和久・谷田久美：相模原市でキマダラカメムシの発生を確認、*神奈川虫報*、175、125 (2011)
- 2) 五箇公一：私たちの生活と外来生物問題、*エコひょうご*、93、1-4 (2019)
- 3) 平井一男：今年前半の気象とキマダラカメムシ、*植物防疫*、69(8)、69-71 (2015)
- 4) 農林水産省消費・安全局植物防疫課国際室：日本から輸出される車両・機械類に関する情報、<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/bmsb.html> (2021年9月9日確認)